

静岡県中学校総合体育大会 軟式野球の部

兼 第44回 東海中学校総合体育大会軟式野球大会 予選会
兼 第44回 全国中学校体育大会軟式野球大会 予選会

1、期 日 令和4年 7月24日(日)・25日(月)・27日(水)・28日(木)
(予備日7月26日(火)・29日(金)・30日(土))

2、会 場 裾野球場 7月24日(日) 【26日(火)予備】
焼津球場 7月24日(日) 【26日(火)予備】
浜岡球場 7月24日(日)・25日(月) 【26日(火)予備】
西ヶ谷球場 7月24日(日)・27日(水)
【25日(日)・26日(月)・28日(木)・29日(金)・30日(土)予備】
菊川球場 7月25日(月)
御殿場東球場 【7月26日(火)予備】
清水庵原球場 7月27日(水)・28日(木) 【29日(金)・30日(土)予備】
庵原サブ球場 7月28日(木) 【27日(水)・29日(金)・30日(土)予備】

3、代表数について

東豆：1 富士：2 田方：1 富士宮：1 三島：1 駿東：2 沼津：2
小笠：2 磐周：3 浜松・湖西：7 静岡・清水：5 志太 榛原：3

※残り2枠の1枠は、「前年度、県総合体育大会 優勝支部」(翔洋中学校のため静岡市に1枠)

※もう1枠は、「全日本少年軟式野球県大会 優勝支部または準優勝支部」

(R4.5月優勝チームは、翔洋中学校のため静岡支部へ1枠)

☆今年度は、志太地区の学校数の関係でプレーオフはない。静岡市5枠、志太榛原3枠 計8

4、チーム編成について

ベンチに入れる大人は3名以内とする。うち監督1名(教員、部活動指導員)、コーチ2名までとし、教員1名、外部指導員1名(又は教員2名)の計3名とする。選手は、20名以内(スコアラーを含む)とし、教員以外(コーチ)がベンチに入る際は、1名までとし、最大人数23名以内とする。ただし、校長はこれ以外にベンチに入ることができる。なお、監督は背番号30、コーチは29、28をつけるものとする。

「部活動指導員」とは、学校教育法施行規則第78条の2に基づき、学校設置者により任用・学校への配慮がなされ、部活動の顧問及び大会等の引率ができる者をいう。

5、部活動指導中における暴力・体罰・セクハラ等に対する静岡県中学校体育連盟の対応について

「静岡県中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、部活動指導員、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であることとしている。校長はこの点を確認して、大会参加申込書を作成する。なお、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は校長から暴力等に対する指導措置を受けていない人物とする。」

6、競技規則

(1) 2022年公認野球規則並びに2022年(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携および別に定める大会特別規定による。

(2) 使用球は、ケンコーボールM号球とする。

(3) その他の使用用具は、(公財)全日本軟式野球連盟公認のものとする。

(4) 投手の制限は、1日に100球までとし、100球到達した打者まで投げることができる。

一人の投手が、1週間で投げられる投球数は350球とする。

7、競技方法について

(1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。

(2) 点差によるコールドゲームは適用する(5回以降7点差、決勝戦も含む)。

軟式野球(2)

- (3) 延長戦は全試合9回までとし、それでも勝敗が決しない場合は勝敗が決するまでタイブレーク方式(無死1.2塁)を行い決着がつくまで行う。
- (4) 雨天などで同チームが同一日に2試合となった場合は、8回よりタイブレーク方式を採用する。

8、参加申込みについて

- ・大会参加資格を得たチームは、参加資格獲得次第(7/11(月)までに)、県中体連事務局ホームページから「参加申込書」をダウンロードし、作成する。参加申込書は下記連絡先にFAXすること。なお、部活動指導員・外部指導者(コーチ)がベンチ入りする場合と合同チームとして参加する場合も、「部活動指導員確認書」「外部指導者(コーチ)承認書」や「合同チームによる大会参加願い」をダウンロードし、作成後下記連絡先にFAXで送信すること。
- ・「参加申込書」「部活動指導員確認書」「合同チームによる大会参加願い」「外部指導者(コーチ)承認書」(全て押印を忘れない)の**原本及び「大会参加料」(参加申込人数×1000円)は大会当日、会場受付にて提出する。**

9、表彰について

- ・5位までを入賞とし表彰する。優勝：優勝カップ(中体連)、優勝楯(静岡新聞社・静岡放送)賞状(中体連)、メダル(静岡新聞社・静岡放送)
- ・2・3位：賞状(中体連)、メダル(静岡新聞社・静岡放送)
- ・5位：賞状(中体連)

10、東海大会・全国大会出場枠について

- ・東海大会：県大会上位2チーム
- ・全国大会：東海大会上位3チーム

11、東海大会・全国大会参加申込について

- ・東海大会：出場校は、申込書を県大会会場で受け取り、そこで県部長が指示した日までに下記「責任者連絡先」宛てに提出する。(提出は、原本・コピー各1部ずつ。学校控えのコピーを1部必ず学校に残す。) 県部長は、コピーを本県中体連事務局に、原本を大会当日開催県専門部長に提出する。
- ・全国大会：申込書を各県大会会場で受け取り、東海大会会場で東海地区部長に提出する。東海地区部長が、要項に示された申込先に発送する。

12、全国大会出場報告について

- ・県部長は、東海大会終了後直ちに全国大会出場チーム名、選手名を県中体連事務局に報告する。

13、責任者連絡先(参加申込書送付先)

〒420-0004 静岡市葵区末広町41番地

静岡市立末広中学校 杉山 肇

電話(学校)054-271-8171 FAX(学校)054-271-8173

中学校体育連盟 軟式野球競技部 大会特別規定及び競技上の注意事項

【試合前】

1. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合には棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
2. 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の30分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。監督と主将は打順表を6部持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の4回終了時に本部1名と担当審判員立ち会いのもと攻守を決定する。
3. ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
4. シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - (2) 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員(当該校生徒)をつけて行うことができる。ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。(投手が守備練習を行う際もマウンドは使用しない)
5. 用具装具については、試合前に審判員の確認に応じなければならない。
6. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認めるが、危険防止のため間隔はしっかり空けて行う。
7. 第2試合以降の先発投手の投球練習は、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。

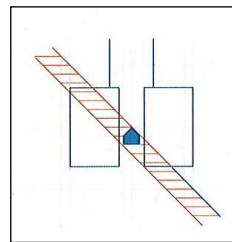
【試合中】

8. 正式試合は、通常7イニングから成る。得点差によるコールドゲームは適用する。
試合の成立は、5回以後とする。不成立の場合は、再試合とする。
ただし、5回以降同点の場合に暗黒・降雨その他の事情で継続不能となった場合は、継続試合とする。
(別記参照)
9. 使用するボールは、本部より提出されたボールを使用する。
10. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
11. 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
12. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で素振りは行わない。ただし、低い姿勢で待つ必要はない。
13. 投手(救援投手も含む)の準備投球数は、初回に限り、7球以内(1分を限度)が許される。次回からは、3球以内とする。また、キャッチャーの装具準備時において2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。捕手、予備捕手は安全のため、マスクをかぶり、カップを付けること。
14. 投手の投球制限
投手は、球数を100球までとする。100球到達の打者まで投げられる。球数の計数は本部が行う。
特別規則第2項 12秒及び20秒ルール
投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。
15. ベンチ内でのメガホンの使用は、監督に限る。
16. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
17. 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
18. 監督が投手のところに行く回数制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からフェールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
19. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
20. 突発事故が起きた際、臨時代走が必要だと審判団が判断した場合は、臨時代走は投手、捕手を除く前打者とする。

軟式野球(4)

21. 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心がける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
22. 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
23. 危険防止のため次のことを徹底する。
 - (1) マスコットバット、バットリング、鉄棒および公認球以外のボール等の球場への持込を禁止する。
 - (2) 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
 - (3) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・急所カップを着用すること。
 - (4) 打者、次打者と走者とランナーズコーチは両耳付きヘルメットを必ず着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
 - (5) 規則 6・01 (i) (【原注】および【注】含む) (本塁での衝突プレイ) の適用について、『ボールを持たない捕手(野手)は下図の斜線部分に足を踏み入れて送球を待つことはできない』こととする。

【図】



24. 規則 3・03 原注〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外、他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。
[規則適用上の解釈]
中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨から離れて利用されることのないように留意されなければならない。
25. 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。(3・03 注関連)
26. 監督が、投手のところへ行く回数の制限 (8・06 関連)
 - (1) 監督が 1 試合に投手の所へ行ける回数は 3 回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2 イニングに 1 回行くことができる。
 - (2) 監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。“中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。
 - (3) 捕手を含む内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数を、7 イニングスの試合にあっては 3 度以内とする。そこへ、監督が行けば双方一度として数える。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)となった場合は、2 イニングスに一度行くことができる。
 - (4) 監督が、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。
27. 攻撃側のタイムの回数制限
攻撃側のタイムは 1 試合に 3 回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2 イニングに 1 回とする。
28. 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
29. 7 回を完了して同点の場合は、次の方法により勝敗を決定する。
 - (1) 熱中症の観点から、選手の体調面を考え、延長戦はなしとする。
 - (2) (1) を終了して同点の時は、8 回から即タイブレーク方式とする。(勝敗が決するまで継続する)
30. 応援団は次の事を守って応援すること。なお、応援団については、監督が責任をもつ。
 - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チーム選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (2) 太鼓などの鳴り物やプラスバンドの応援は認めるが、自チームが攻撃をしている場面での応援とする。自チームが守備の時は、座っていることが望ましい。
 - (3) 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
 - (4) 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしたりしない。
 - (5) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - (6) 球場の設備を傷つけたり、試合を妨害したりするような応援はしない。
 - (7) メガホンを使用してもよい。
 - (8) 笛(ホイッスル)は使用してもよいが、投手が投球動作に入ったら慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に笛で盛り上げることのないようにする。

(9) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。

(10) 基本的には、事故防止の観点から、スタンドへのテント設営は禁止とする。ただし、屋根のないスタンドに関してのみ、熱中症の心配が予想されるためテント設営を認める。(必ず固定する)

【試合後】

31. 試合終了後の挨拶は、ホームプレートをはさんですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
32. 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の試合の日程などを確認する。

【その他】

33. 1チームの編成は、監督1名、選手18名以内(スコアラーを含む)とする。コーチが必要な場合はその他に教員(2名まで、ただし1名は外部可)を追加することができる。校長はこれ以外にベンチに入ることができる。
34. 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォーム・スパイクを着用する。ただし、複数校合同チームのユニフォーム・スパイクは、それぞれの学校のものを使用してもよい。監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ)に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。サングラスは使用しない。(平服の者は、緊急時対応(怪我等)以外はグラウンドに出ることができない)
35. 監督は、背番号30番をつける。コーチは29, 28番をつける。
36. 選手がテーピングをする場合、露出する部分については肌色に近い色のものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
37. 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
38. 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。試合開始時刻は30分前まで早めることがある。ただし、天候等による特別な事情による場合にはその限りではない。また、降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
39. 選手のユニフォームには、規定の大きさ(文字の大きさは、1文字縦20cm、横16cm、太さ4cm)の背番号をつける。背番号は一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。
40. 選手はサングラスを原則使用しない。医療を目的としたテーピング等の使用は認める。
41. 登録選手に突発事故が生じ、登録選手を変更する場合は、自チームの初戦の前までに受付で登録選手変更願(中体連ホームページ)を添えて、申し出ること。
42. ボールボーイ、バットボーイ、シートノック時にノッカーにボールを渡す生徒(選手)は、いずれも必ずヘルメットを着用する。
43. アップに関して
 - (1) 球場内でのアップ人数は以下のようにする。
登録メンバー(選手、監督、コーチ)と補助員3名のみ
 - (2) 球場内アップの内容
ハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。
 - (3) 球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第1試合チームはメンバー交換まではチームで統一されたTシャツも可とする。(アンダーシャツのみは禁止)
 - (4) グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
44. 試合中の控え選手のグラウンド内のアップはバッテリーを含む4名以内とする。キャッチボールのみ認める。(ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球も禁止)ただし、イニング間は上記のアップを試合の進行に妨げにならない範囲で許可する。
ただし、グラウンド内にブルペンがない場合は、外のブルペンは自由に使ってもよい。

軟式野球(6)

別 記

① 後攻の勝ち

0	0	0	0	0
0	0	1	0	

② 後攻の勝ち

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1

③ 継続試合（教育的配慮）：6回の表、先攻が2点を入れてなおも攻撃中

0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	1	

③ 継続試合：6回の表、先攻が1点をとって攻撃中

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	

④ 継続試合

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	

⑤ 継続試合：6回の裏、後攻が1点をとって攻撃中

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	1

⑥ 再試合

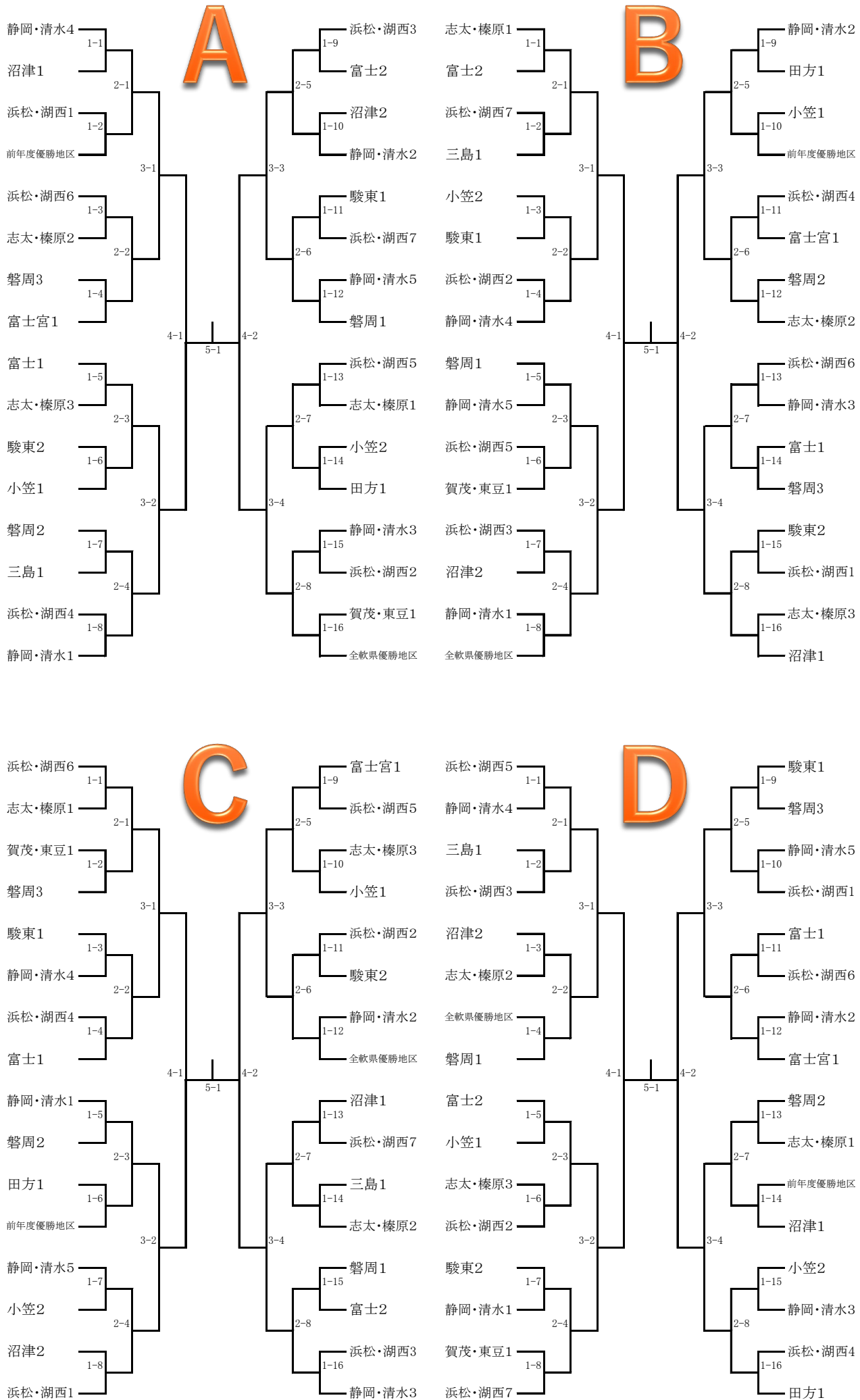
0	0	0	0	0
0	0	0	0	

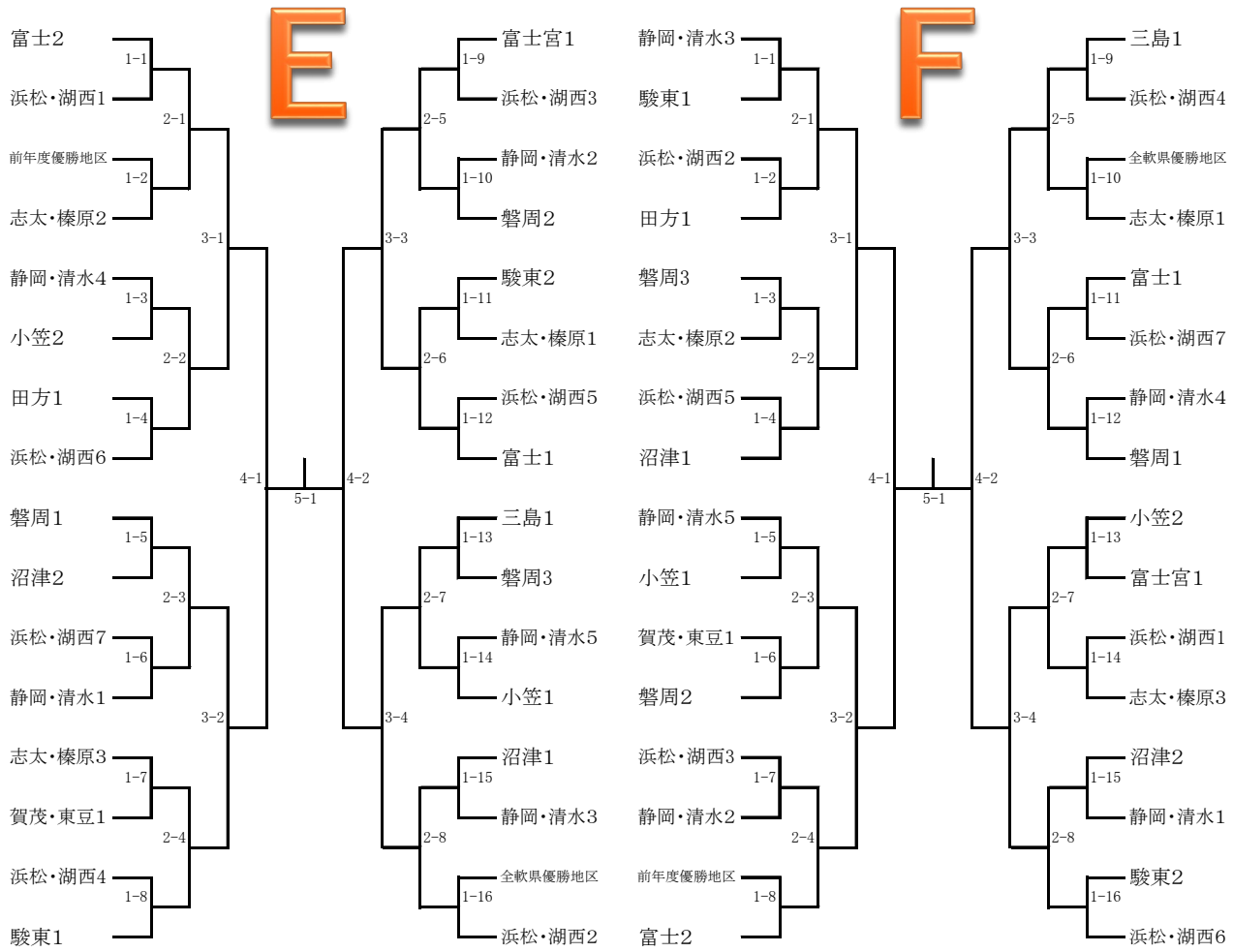
⑦ 再試合

0	0	0	0
0	0	1	

14. 組み合わせ

6パターンの中から出場校決定後に責任抽選を行う。





・「前年度優勝地区」と「全軟優勝地区」が同じ地区の対戦になった組み合わせは、抽選からはずす。

・昨年度採択された組み合わせは、本年度の抽選からはずす。令和3年度は、E だった。